

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



September

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

September 2025 vol.137

◆名古屋地方気象台

所在地：名古屋市千種区日和町

交通：地下鉄東山線「本山」駅北東約700m

名古屋地方気象台は、明治23(1890)年7月1日、名古屋市南武平町（現在のNHK名古屋放送センタービル付近）に名古屋一等測候所として創設され、気象観測を開始しました。その後、愛知県測候所に改称され、大正11(1922)年には千種区日和町に鉄筋コンクリート造平屋建ての本庁舎が竣工し、大正12(1923)年1月1日より、現在地で業務を行っています。現在の気象台周辺は住宅街となっていますが、移転当時は「周囲は一面雑木林に取り囲まれた寂しい所で、人家といえば山の下に家が4,5軒あったくらい」とのことです。昭和23(1948)年には木造2階建ての現業庁舎が竣工しますが、昭和34(1959)年の伊勢湾台風で現業庁舎は大破し、昭和36(1961)年に鉄筋コンクリート造3階建てで再建されています。

こうした歴史のある名古屋地方気象台は、令和5(2023)年で、現在地で業務を開始してから100年となりました。100年前に建てられた鉄筋コンクリート造平屋建ての本庁舎は現在も使用されており、いまでも使用されている気象台の庁舎としては、最も古いものとなっています。この間、昭和19(1944)年には昭和東南海地震を経験し、昭和34年には伊勢湾台風が襲い隣の現業庁舎は大破しますが、本庁舎はいずれにも耐え抜き、その姿を現在にとどめています。

現在も残る、歴史ある本庁舎の建物は、鉄筋コンクリート造平屋建てで、明治時代の測候所と同様、屋根の上に風速を観測する機械を設置するやぐら（風速計台）が備えら

れています。また、新築当時は瓦屋根で、屋根の軒や車寄せに設けられた持ち送り部分や、風速計台の壁面の装飾には、建築当時流行していたセセッション（ゼツェッション）様式（19世紀末～20世紀初頭のウィーンで生まれた芸術運動に由来、幾何学模様の装飾などが特徴）が見られるなど、様々な趣向が凝らされています。

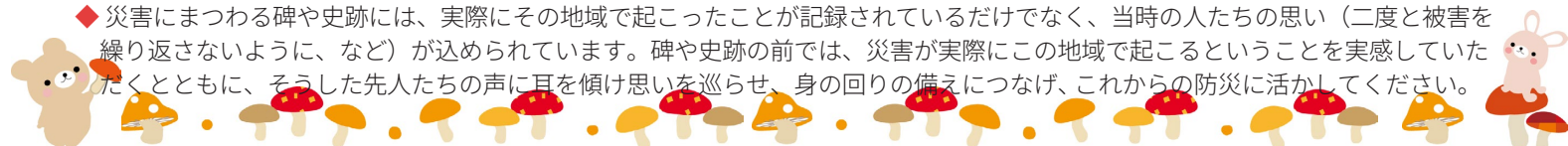
気象観測においては、移転などにより観測条件が大きく変わると、場合によってはデータの連続性が失われてしまいますが、名古屋地方気象台は100年間、移転することなく同じ場所で観測を続けていることになり、均質性が保たれているという点で、大変貴重なデータとなっています。

名古屋地方気象台では、地方公共団体、教育機関、国の機関等の見学を実施しており、気象台の業務概要の説明、屋外施設の案内、気温や雨量の観測の仕組み等の説明などを受けることができます。ぜひ訪れてみましょう。

なお、名古屋地方気象台のHPには、100周年記念特設サイトが開設されており、「過去から」として、気象台の業務の変遷や、100年前当時のまま現役で使用されている庁舎の特徴、過去に使われていた観測測器の紹介、「現在」として、気象台の様々な観測機器や観測露場、予報現場などの動画紹介、「未来へ」として、気象にまつわる実験動画、気象に関するクイズ、気象台の見学ができる子ども向けコンテンツが用意されています。（<https://www.data.jma.go.jp/nagoya/100years/100index.html>）



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたりとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

● 関東大震災探索まちあるきルート (vol.112,2023.8)

所在地：名古屋市千種区

交通：地下鉄名城線「自由ヶ丘駅」周辺ほか

大正 12(1923) 年 9 月 1 日に発生した関東大震災の後、名古屋では多くの被災者の受け入れを行っており、各地に慰霊碑や供養碑などが残されています。名古屋市千種区にある関東大震災にまつわる史跡を紹介します。

地下鉄自由ヶ丘駅からすぐ、日泰寺の墓地内には関東大震災惨死者供養塔があります。この供養塔は、震災から約 3 年後の大正 15(1926) 年 8 月に建立されたもので、背面には世話人の、右面には寄付者の住所氏名が記載されています。現在の住所と対応させると、中区、東区、中村区、西区、熱田区などとなっており、被災者の受け入れにあたった方々による建立であると考えられます。

少し歩くと、関東大震災横死者追悼之碑があります。こ

の碑は、地震からほぼ 100 日目にあたる大正 12 年 12 月に建立されたもので、百か日法要に合わせて建てられたものと考えられます。背面には「名古屋市東区蒲焼町青年団世話人町役員一同」とあり（蒲焼町は現在の中区錦三丁目付近）、地元青年団が主体となって建立されました。

続いて、関東大震災供養堂です。この供養堂は、関東大震災の犠牲者を供養するもので、日泰寺奉安塔の入口横に建てられています。供養堂の建設は萬燈会創立二十周年記念事業として行なわれました。萬燈会は覚王山の山内及び東方へ電燈を施すことを目的とした団体で、供養堂は、萬燈会により寄付が集められ創設されています。なお、現在でも震災の日の 9 月 1 日には御堂の扉を開けて供養が行われています。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.112 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★ 秋酒祭 愛知～ AUTUMN SAKE FEST 2025 ～

愛知県は全国第 7 位の日本酒の生産量を誇り、約 40 の酒蔵が製造を行っています。秋は新米で新酒が造られ始め、一方、春先に造られたお酒が熟成して飲み頃となる「秋あがり」の時期、この秋こそ日本酒の季節、ということで、愛知県内の 27 の酒蔵が秋空のもとに集結する秋酒祭 愛知～ AUTUMN SAKE FEST 2025 ～が、毎年 10 月第一土曜・日曜に、久屋大通公園・エディオン久屋広場で開催されます。(2025 年は 10 月 4 日(土)、5 日(日))



秋酒祭 愛知 2025 HP より

会場では、スターターセットとして、コインとオリジナルお猪口を購入し、お好みのブースでお酒やおつまみを購入します。HP やアプリでは、提供される日本酒の特徴が掲載されており、事前にチェックした上で、地元酒蔵の様々な日本酒を楽しむことができます。

～鉄道で巡る～

地下鉄東山線は、高畑駅から藤が丘駅まで名古屋市内を東西に結ぶ、22 駅、20.6km の路線で、市内で最初に開業した地下鉄路線です。朝のラッシュ時は最短 2 分 5 秒間隔、夕方のラッシュ時は 3 分間隔で列車が走り、国内でも有数の高頻度運行路線となっています。

東山線の路線名は、沿線に東山動植物園があったことから名づけられました。



photo AC より

●ブレイクタイム●

♪ 東山動植物園

東山動植物園は、名古屋市が運営する動植物園で、昭和 12(1937) 年に開園しました。動物園として日本で初めて来日したコアラや、イケメンで有名なニシゴリラのシャバーニなど、飼育種類数は日本一です。植物園には約 7,000 種が展示され、桜の回廊や紅葉スポットなど、四季折々の自然を楽しむことができます。園内には、昭和 11 年の竣工で、国の重要文化財に指定される植物園温室前館や、昭和 12 年に設置された動物園正門の噴水など、歴史ある建造物も見ることができます。

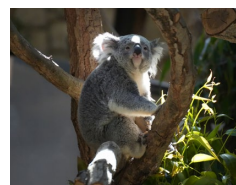


photo AC より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 2025 年 9 月)

